



「土と炎に魅せられて」－信楽

荒川 智 陶芸展

令和7年 7月25日(金)－9月2日(火)

最上川美術館 企画展示室

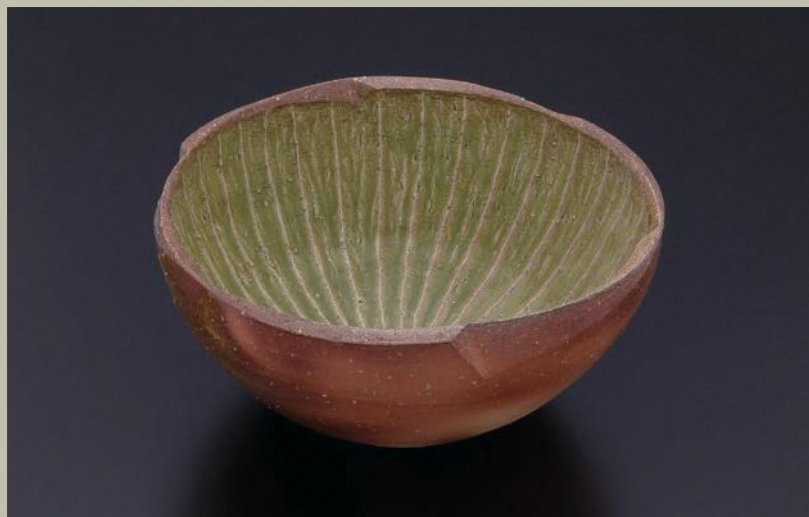
－ 作家ギャラリートーク (申込不要) 7月26日(土) 午後1時30分～

フォルムと景色のコントラスト

中世信楽焼の緋色や灰被りまた焦げなど、変化に富む焼肌は「景色」と呼ばれ鑑賞の見所として今も多くの愛好家に親しまれている。荒川の特徴はこの薪窯焼成の伝統に、明瞭な線で構成されたフォルムが対峙する、コントラストの効いた作風にあるといえよう。平明なフォルムに面取りや鑄を加え、時には釉薬を用いながら意識を内外また表裏へと導く。焼締め陶の情景を現代的に活かした表現に、作者が追求してきた信楽の姿が認められる。

滋賀県立陶芸の森
専門学芸員 鈎 真一

- ・ 休館日：水曜日
- ・ 開館時間：午前9時～午後5時（最終入館午後4時30分）
- ・ 入館料：大人 300円 高校生以下無料



最上川美術館
真下慶治記念館

〒995-0054 山形県村山市大字大淀1084-1

TEL 0237-52-3195



《焼〆面取花器》

荒川 智 (Arakawa Satoshi) 略 歴



- 1971年 山形県新庄市に生まれる
- 1992年 陶芸を志し滋賀県信楽町へ
- 2000年 第29回日本伝統工芸近畿展初入選
- 2001年 第30回日本伝統工芸近畿展入選 以降入選を重ねる
- 2005年 信楽 陶園にて個展
- 2007年 第54回日本伝統工芸展入選 / 渋谷ギャラリーにんにて個展
- 2008年 西武大津店にて二人展
- 2009年 京都「CRIA展」出品 / 信楽 陶園にて個展
- 2010年 第21回秀明文化基金賞受賞
- 2011年 韓日陶芸家交流陶磁展に出品 甲賀市信楽町柞原に地上式穴窯を築窯
- 2012年 第59回日本伝統工芸展入選
- 2013年 第60回日本伝統工芸展入選 / 西武大津店にて個展
- 2014年 渋谷東急本店にて個展 (15、16、19)
- 2017年 そごう横浜店にて個展
- 2018年 日本陶磁協会奨励賞関西展入選
- 2020年 第24回美濃茶盤展入選
奇跡の土ー信楽焼をめぐる三つの景色 (滋賀県立陶芸の森)
第67回日本伝統工芸展入選 日本工芸会正会員に認定
- 2021年 第8回陶美展入選
- 2024年 第53回日本伝統工芸近畿展 滋賀県知事賞受賞
あべのハルカス近鉄本店にて個展
備前・現代陶芸ビエンナーレ2024入選
- 2025年 第12回陶美展入選 / 日本橋高島屋にて二人展

現在、日本工芸会正会員、信楽陶燿会会員、信楽作家協会会員

「土と炎に魅せられて」 — 信楽 荒川智 陶芸展

ご 挨拶

この度、最上川美術館にて故郷山形での初めての陶芸展を開催させていただくこととなり、深く感謝申し上げます。

陶芸を志し、山形新庄を離れ焼き物の産地である滋賀県信楽で作陶を始めてから33年がたちました。そして今、その信楽で薪窯での焼締め陶器の作品を制作しております。

陶芸がしたいというただその思いだけで信楽に行き、薪窯と出会いそこから生まれる作品。何も知らなかった私には衝撃的な出来事であり感動したのを覚えております。

荒い信楽の土との対話、炎との格闘、和解。自然の力から生み出される火色、ビードロ、こげ、窯変、薪窯でしか出会えない景色。美しさ、力強さ、面白さ、楽しさ、難しさのすべてに魅了され私は今も追求しております。

是非ともこの機会に今の薪窯陶芸の世界をご高覧いただければ幸いです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

荒川 智



《焼〆窯変面取皿》



《焼〆火色球壺》



荒川智 信楽 陶芸
ホームページ

表面作品：上 《焼〆窯変面取鉢》
右下 《信楽緑釉シノギ鉢》



〒995-0054
山形県村山市大字大淀1084-1
TEL 0237-52-3195

村山市公式ホームページ→

